

秩父宮殿下ノ御渡政ニ先テ斯カル事件ノ存續スルハ誠ニ畏レ多イ事デ直訴デモサレテハ誠ニ申訳ナイ重大ナ事ニナルノデ急速ニ解決レタノデアアル

今社ノ内外ヲ通ジテ日本精神ニ基キ社内革新ノ時期デモアルノデ兩齣会ノ行動モ其ノ精神ハ良イガ会社ノ統制ヲ礼シタ点デ會社ニ對シ陳謝セシメタノデアアル

不致問題モ責任ヲ明ニスルト云フコトモ調査ノ上責任ガアレバ之ヲ明ニスル意味デアアル云々

ト會見ヲ終リタルガ會社側ハ用意周到ニシテ何等明確ナル回答ヲ與ヘス代表ハ午後三時辭去セリ

尚米窪山川ハ浦田海務課長、和田庶務課長ヲ訪問シ兩齣會問題ニ對シ會社側ノ態度ニ對スル追及諮問ヲ為セリ

右又申(通)報俚也

勞務第六二四號

昭和十二年三月二十七日

警視總監 横山 助成

内務大臣 河原田 稼吉 殿
 逋信大臣 兒玉 秀雄 殿
 社會局長 長官 殿
 各 縣 存 縣 長 官 殿

(昭十二年三月二十七日)

日本郵船株式會社兩齣會員ノ國旗不揚揚問題ニ伴フ會社革新運動解決後ノ動靜ニ關スル件

(第二報)

要旨

(一) 會社側、役員協會兩齣會員ト支船報告ノ陳情對シ三月五日高等外理事ヲ本社指教ハ兩齣會員ノ屢次兩齣會
 上層ニ對シ行動ノ自覺ニ達スルニ兩齣會員二百十名ノ別冊數兩齣會上層約書提呈ト既完了者及名
 連シ内若ク其數千積ヲ終ルナリ 會後職員等ハ各自對策協賛中ナリ

